

● ● 暮らししの広場 ● ●



■大腸がん編

克服へ

[39]

工藤 明敏



合に、が
んの進行
を抑える
目的で化
学療法を
行う場合

ある程度進行したがんでは、切除しても目に見えないがん細胞が残っていて、手術後に一定の頻度で再発が起こります。抗がん剤を1年間内服することで再発予防効果があります。

化学療法

薬に特有の合併症を知る

があります。患者さんは歩行可能で身の回りのことが自分でできて、心臓・肝臓・腎臓機能が良好なことが必須です。がんを完治させることは困難ですが、がんを縮小させて生存期間は延長します。

代表的な化学療法として「フォロフォックス療法」と「フォロフィリ療法」があります。抗がん剤の頭文字をとって名前が付きまして。

どちらも48時間続けて点滴を行なうため、抗がん剤注入用の容器を皮下に埋め込むことが多くなりました。点滴が終わったら入浴が可能です。

フォロフォックス療法は、食欲低下や脱毛が目立ちませんが、4回目以降に指先のしびれやのどの違和感が出て、冷たいものをさわったり、飲んだりすることで誘発されます。はしが持てない、ポタンがはめられないといった症状が起る前に薬を減らすこと

や休薬することで、副作用の回復を待ちます。

フォロフィリ療法は、食欲低下や倦怠感、下痢、脱毛がみられることが多いですが、採血で遺伝子検査を行うと合併症が起りやすいかどうか

を判定できます。多くの場合、二つの療法に「分子標的治療薬」が併用されます。この薬は、がんに栄養を与える新しい血管を作らせないようにしたり、がん細胞が増殖をはじめするスイッチを切る働きがあります。

除した腫瘍組織で遺伝子検査を行ってその薬が効くかどうかを調べます。

化学療法でがんが縮小すれば、場合によっては、手術を行って根治を目指すこともあります。がんが明らかに進行せず合併症がない場合は、同じ化学療法を継続します。

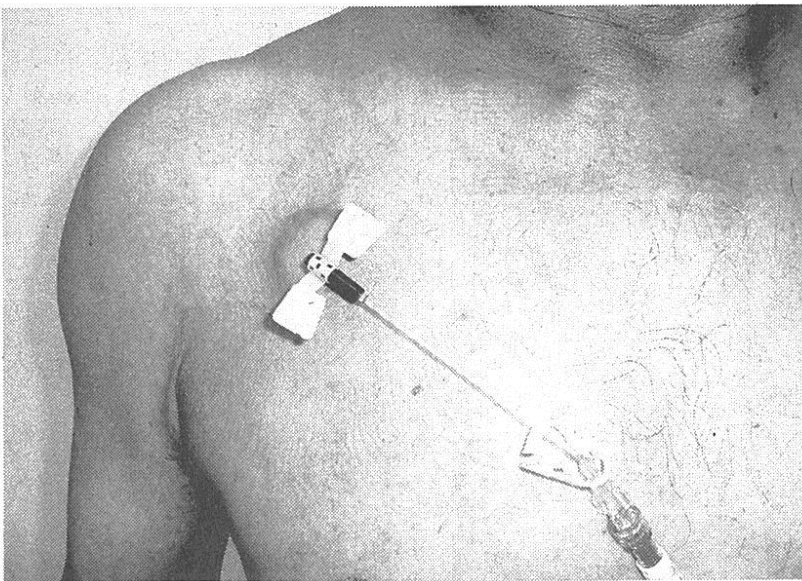
合併症が強ければ、関与する薬を減量するか、いったん休むこととなります。がんが明らかに大きくなれば、別の抗がん剤に変更します。

抗がん剤は、がん細胞だけでなく正常細胞にも障害が出てきます。

これが合併症で、症状で分かるものと血液検査で分かるものがあります。抗がん剤特有の合併症があるので、どの抗がん剤を使っているかは自分で把握しておきましょう。

(阿知須公立病院診療部長、外科部長)

|| 第2火曜日に掲載



抗がん剤注入用の容器が右肩口の皮下に埋め込まれている。この部分に針を刺して抗がん剤を注入する